

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(作業療法学) 専門科目	基礎作業療法学 作業療法概論	作業療法の歴史、作業のもつ意味や治療的応用などの作業療法の概念、評価から治療に至るまでの作業療法過程、各分野における実践展開にあたる作業療法の実際について学習する。いずれも作業療法白書などの資料や、臨床実習の記録も含めた事例を基に学習を進める。	
(作業療法学) 専門科目	基礎作業療法学 研究法	作業療法における研究の必要性について論じ、研究の形態や、研究の目的と仮説、文献検索方法、研究方法の考案、結果分析の方法、考察の進め方について解説し、それぞれの研究例を紹介する。疑問に気づき、解くという研究活動を行うことで、その進め方や意義を探究し、日常の問題意識や疑問を解決するための一手段として用いることができるようになることを目標とする。 さらに研究実施の上で、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理的配慮、インフォームドコンセント、プライバシーの概念を明らかにし、公正で責任ある研究活動を推進する等の研究倫理のポイントを理解する。	
(作業療法学) 専門科目	基礎作業療法学 研究法演習	科学的根拠に基づく医療（EBM）が求められる中で、作業療法を科学的視点で検証し形作ることの意義は大きい。卒業論文を作成する中で学生が志向する分野における研究疑問の設定、文献レビューの作業を行い、作業療法専門職としての学術技能、知識の向上を図る。	
(作業療法学) 専門科目	基礎作業療法学 作業療法研究	科学的根拠に基づく医療（EBM）が求められる中で、作業療法を科学的視点で検証し形作ることの意義は大きい。卒業論文を作成する中で学生が志向する分野における研究計画書の作成、予備研究、研究の実施、データ収集、結果の処理・分析、執筆、報告発表までの一連の作業を行い、作業療法専門職としての学術技能、知識の向上を図る。	
(作業療法学) 専門科目	基礎作業療法学 作業分析学	作業療法では、様々な作業活動を用いて対象者の治療・指導・援助を行う。ここでは作業遂行の構成要素、関連理論について学習する。また作業活動についての思考法である作業分析について、身体運動技能、認知技能、心理社会的技能、及び感覚統合技能などの枠組みで作業分析を実施し、同時に段階付けや教授法について理解を深める。	
(作業療法学) 専門科目	基礎作業療法学 作業技法(基礎)	作業療法では、様々な作業活動を用いて対象者の治療・指導・援助を行う。ここでは臨床でよく用いられる木工、革細工、編み物、籐細工、陶芸、マクラメ、タイルモザイク、金工、ビーズ細工、張り子、織物、七宝焼きなどに関して作業技術を習得する。	
(作業療法学) 専門科目	基礎作業療法学 作業技法(編み物・陶芸)	作業療法では、様々な作業活動を用いて対象者の治療・指導・援助を行う。ここでは学生自らが準備から完成までを実際に体験し、作業療法における編み物と陶芸についての基本的な知識、技術、応用工夫を習得する。 また、作業工程および作業分析を実施し、同時に段階付けや教授法について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
（作業療法学） 専門科目	基礎作業療法学 作業技法（革細工・籐細工）	作業療法では、様々な手段を用いて対象者の治療・指導・援助を行う。ここでは作業療法場面で治療として導入される代表的な作業種目である革細工と籐細工を体験し、作業技術を習得する。 また作業工程および作業分析を実施し、同時に段階付けや教授法について理解を深める。	
（作業療法学） 専門科目	作業療法管理学 作業療法管理学	質の高い作業療法を提供するためには、作業療法に関するマネジメントは重要である。本授業では職業倫理をはじめ、医療情報、医療サービス、医療安全のマネジメントおよび、作業療法部門（作業療法業務、作業療法教育）に関連するマネジメントを学習する	
（作業療法学） 専門科目	作業療法評価学 作業療法評価学	作業療法の評価の目的、手段、評価範囲などについて学習する。まず作業療法過程の中で評価を役割について理解し、評価結果の解釈から問題解決までの道筋について考察する。また、作業療法の対象理解のために現在作業療法の中で用いられている評価法（身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域、老年期障害領域、職業関連領域）について概観する。そして基礎機能である観察と面接について、見るべき、話すべき、聞くべきポイントや施行上の注意などについて理解を進める。	医用画像評価を含む
（作業療法学） 専門科目	作業療法評価学 身体機能評価演習Ⅰ	評価は作業療法において最も重要な基礎的技能である。作業療法における身体機能面の評価の目的について理解し、具体的な技法を学ぶ。この授業では意識状態、バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定、知覚検査（表在感覚・深部感覚）、反射検査（表在反射・深部反射・病的反射）の目的と方法に習熟し、得られた評価結果の解釈方法について学習する。	
（作業療法学） 専門科目	作業療法評価学 身体機能評価演習Ⅱ	評価は作業療法において最も重要な基礎的技能である。作業療法における身体機能面の評価の目的について理解し、具体的な技法を学ぶ。この授業では徒手筋力検査法、筋緊張検査、協調性検査、筋緊張検査、上肢機能検査（S T E F・M F T）の目的と方法に習熟し、得られた評価結果の解釈方法について学習する。	
（作業療法学） 専門科目	作業療法評価学 心理社会機能評価演習Ⅰ	評価は作業療法において最も重要な基礎的技能である。作業療法における心理社会機能面の評価の目的について理解し、具体的な技法を学ぶ。この授業では精神科作業療法実践に必要な観察面接手法、また集団に関する評価、精神症状評価法、社会生活能力評価法の目的と方法に習熟し、得られた評価結果の解釈方法について学習する。作業療法士が行う評価技術の基礎を習得し、評価結果を包括的に捉えることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(作業療法学) 専門科目	作業療法評価学 心理社会機能評価演習Ⅱ	<p>評価は作業療法において最も重要な基礎的技能である。作業療法における心理社会機能面の評価の目的について理解し、具体的な技法を学ぶ。この授業では心理精神に関する検査および高次神経障害に対する検査手技について学習する。 (オムニバス方式/全30回) (全15回)</p> <p>心理精神では、SDS、MAS、PANSSなどの精神機能、WAISなどの知能検査とY-G検査などの性格検査、箱作り法などで作業遂行機能検査、対人パターンなどで社会性の評価検査を具体的に学習する。またREHABやLASMI、GATBなどで社会生活機能、ESCROWやPULSES、興味関心チェックリストなどで生活の満足度などが評価検査を学ぶ。作業療法士として自分を知らずために、交流分析を行なう。 (全15回)</p> <p>高次神経障害に対する評価として注意機能、半側無視、視覚失認、記憶障害、失行症に対する検査の目的と方法に習熟し、得られた評価結果の解釈方法について学習する。</p>	オムニバス方式
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 作業治療学の基礎	<p>作業療法のアプローチは機能の回復、障害の軽減を目標にする「治療」、障害を克服するために新たな技能獲得を可能にする「指導」、また、趣味などの開発にみられるようなよい作業体験を経て人間として実存を可能にするための「共存」に分類することができる。それらの枠組みである作業療法で応用されている理論と実践のプロセスを理解する。</p>	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 身体障害作業療法学	<p>身体障害の作業療法分野で対象となる運動系障害(筋力、持久力、関節可動域、筋緊張、反射・反応、廃用症候群、全身的持久力)、感覚系障害(感覚、知覚、認知)などを理解し、よく用いられる評価手技や治療理論、実際の治療手段について理解を深める。また身体障害分野でよく用いられる装具療法および物理療法について学習する。</p>	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 身体障害作業療法学演習Ⅰ(脳血管障害・神経系疾患)	<p>身体障害作業療法分野における対象疾患の中で多くを占める脳血管障害と頭部外傷および神経系疾患に関する作業療法プロセスを理解し、作業療法実施において必要な技能を学ぶ。 (オムニバス方式/全30回) (全20回)</p> <p>脳卒中・頭部外傷の原因・症状・合併症などの理解、評価手技の理解と実施、症例検討を通しての評価から治療計画までの理解と実施、よく用いられる治療手技に関する理解と実施などが含まれる。 (全10回)</p> <p>失調症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、ギランバレー症候群、多発性硬化症などの神経疾患の原因・症状・合併症などの理解、評価手技の理解と実施、症例検討を通しての評価から治療計画までの理解と実施、よく用いられる治療手技に関する理解と実施などが含まれる。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 身体障害作業療法学演習Ⅱ(脊髄損傷・リウマチ)	身体障害の作業療法分野対象疾患で多くを占める脊髄損傷、関節リウマチの作業療法プロセスを理解し、作業療法実施において必要な技能を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (全8回) 脊髄損傷の原因・症状・合併症などの理解、評価手技の理解と実施、症例検討を通しての評価から治療計画までの理解と実施、よく用いられる治療手技に関する理解と実施などが含まれる。 (全7回) 関節リウマチの原因・症状・合併症などの理解、評価手技の理解と実施、症例検討を通しての評価から治療計画までの理解と実施、よく用いられる治療手技に関する理解と実施などが含まれる。	オムニバス方式
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 身体障害作業療法学演習Ⅲ(骨折・切断・内部障害)	身体障害の作業療法分野対象疾患で多くを占める骨折、切断・内部障害脊髄損傷、関節リウマチの作業療法プロセスを理解し、作業療法実施において必要な技能を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (全7回)呼吸器疾患、循環器疾患、糖尿病などの内部渉外の原因・症状・合併症などの理解、評価手技の理解と実施、症例検討を通しての評価から治療計画までの理解と実施、よく用いられる治療手技に関する理解と実施などが含まれる。 (全8回)骨折、切断の原因・症状・合併症などの理解、評価手技の理解と実施、症例検討を通しての評価から治療計画までの理解と実施、よく用いられる治療手技に関する理解と実施などが含まれる。	オムニバス方式 喀痰等の吸引を含む
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 精神障害作業療法学	精神保健科医療福祉の歴史から今後の精神保健医療福祉と精神科作業療法の展望として現代社会な流れと精神科作業療法の役割を学習する。処遇の改善、医療的かかわりを目指した作業療法理論、社会復帰に向けた日常生活活動、社会資源の利用、地域での暮らしを促進していく他職種との連携、家族周囲への働きかけなどを含む精神科リハビリテーションの過程を理解する。	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 精神障害作業療法学演習Ⅰ(作業治療法)	精神障害者の特徴である「生きづらさ」を理解し、その捉え方、関わり方を習得する。疾患の特徴を理解し、行動特性、回復過程に合わせた作業療法について学習する。日常生活や対人関係の困難さに対する理解を深め、日常生活、社会生活の援助方法を具体的に理解する。	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 精神障害作業療法学演習Ⅱ(臨床関係論)	臨床的に精神障害の患者との信頼関係を構築していく視点とその方法を学習する。患者の話に対する傾聴や受容の方法、共感の示し方など実際を想定したロールプレーを行い、模擬体験を通して関係性の構築方法を身に付けていく。精神科作業療法で行なわれている集団の場のダイナミズムの捉え方、評価方法、活用方法を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 発達障害作業療法学	発達障害の作業療法実践に必要とされる基礎知識および技術について理解する。疾患に対する理解を深め、発達障害分野の作業療法士に求められる役割などを評価や治療計画、対象児にかかわる人への支援方法などの治療技術を含めて学習する。 (オムニバス方式／全15回) (全8回) 発達障害分野の代表疾患である脳性まひ、重症心身障害について理解を深める。 (全7回) 発達障害分野の代表疾患である自閉症スペクトラム、注意欠陥多動障害、学習障害についての理解を深める。	オムニバス方式
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 発達障害作業療法学演習	発達障害領域の評価や治療について実際の演習を通して学ぶ。評価は一般的発達検査、姿勢・運動発達、知能発達、感覚・認知・運動過程の発達検査等の実施方法や結果の解釈を行う。治療はより具体的に障害像を捉え、実践的な援助方法の学習につなげるために事例や視聴覚教材を用いて演習を行う。	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 高次神経障害学	中枢神経系の障害で出現する高次神経障害における症状、評価、治療について概説し、それらを把握するために必要な評価法、治療手技などの技能について学ぶ。前半では脳の全般的な障害（意識障害、注意障害、記憶障害、その他の行動障害など）の原因、分類などを概説しそれぞれに対する評価法、治療に必要な技能について学ぶ。後半では脳の局所障害で現われる失行、失認、失語に関して、症候の障害概念、評価、治療について学習する。	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 老年期障害作業療法学	高齢社会といわれる我が国の現状を踏まえ、対象者の身体機能・精神機能の変化やそれに伴って起こる生活上の動作・行動・行為への援助法などについて学習し、作業療法の役割や考え方を学習する。また、症例の問題を分析し、必要ない学的知識を獲得し、問題解決の方法を考える。老年期障害として、廃用症候群、認知症などを取り上げ、それらの作業療法および集団作業療法やその他の療法について学習する。	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 老年期障害作業療法学演習	高齢社会といわれる我が国の現状を踏まえ、対象者の身体機能・精神機能の変化やそれに伴って起こる生活上の動作・行動・行為への援助法などについて学習し、作業療法の役割や考え方を学習する。また、症例の問題を分析し、必要ない学的知識を獲得し、問題解決の方法を考える。老年期障害として、廃用症候群、認知症などを取り上げ、それらの作業療法および集団作業療法やその他の療法について学習する。	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 日常生活活動	日常生活活動および手段的日常生活活動は、作業療法の中でアプローチ手段の一つになるばかりでなく、対象者の自立を考えていく上でそれ自体が目標動作となり非常に重要な作業活動である。日常生活活動および手段的日常生活活動の概念および分類、食事動作などそれぞれの動作活動の特徴や活動構成要素、各動作における障害、日常生活活動障害および手段的日常生活活動の評価、日常生活活動障害に対してのアプローチについて概説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 日常生活活動演習	日常生活活動および手段的日常生活活動に関連して、必要な技能について演習を行う。生活関連器具としては自助具を取り上げ、生活障害を設定し、考察をしながら自助具作製計画を立て、材料収集および制作を行う。また、日常生活活動関連の動作については、同じく障害を設定し、想定される問題点を予想し、解決策をあげ、実施計画を立てて実施する。介助法に関しては介助法の基礎、障害別の介助法について学習する。	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 作業療法演習	3年間の授業および臨床実習で学んだ作業療法士として必要な基礎的知識・および技術の整理と統合を図る。解剖学や生理学をはじめとする基礎医学、整形外科や精神医学をはじめとする臨床医学について復習し、知識を整理する。さらに、作業療法が対象とする各疾患の評価・治療、職業関連活動、作業療法に関する法令、作業療法を行う上で必要な管理・運営について復習し、それぞれの知識および技術を統合し、作業療法における問題解決につなげる。	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 作業療法評価実習	専門基礎科目、作業療法評価学などの授業を基に身体障害・精神障害の分野において実習を行う。実際の対象者に小グループにて適切な評価を選定・実施する。評価結果および情報を統合し、患者および対象者の抱える問題の構造を明らかにし、治療目標、治療計画につなげていくことを学習する。実習終了後に学内にてまとめを行い、実習で学んだ知識や経験を整理し、臨床評価実習につなげていく。実習終了後に学内にてセミナーを行い、実習で学んだ知識や経験を整理する。	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 作業療法治療実習Ⅰ	2年次の臨床評価実習の後に作業療法治療学などの授業を基に、身体障害・精神障害・老年期障害の各分野において実習を行う。実際の対象者に小グループにて適切な評価に加え治療を選定・実施する。評価結果および情報を統合し、患者および対象者の抱える問題の構造を明らかにする。それらの問題を解決するための作業療法治療計画を立案し、実施する。以上の過程を通して臨床場面での問題解決能力を高める。実習終了後に学内にてセミナーを行い、実習で学んだ知識や経験を整理する。	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 作業療法治療実習Ⅱ	3年次の臨床実習Ⅰの後に作業療法治療学などの授業を基に、身体障害・精神障害・老年期障害の各分野において実習を行う。実際の対象者に小グループにて治療を選定・実施する。実習終了後に学内にてセミナーでは、実施した治療に関して、治療的根拠や、対象者のナラティブにそって効果について検討を加える。	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 作業療法特論(基礎)	作業療法の臨床は日々発展している。また、社会的な動向も流動的で変化し続け、作業療法もこのような中、それに対応した変化を求められている。講義では作業療法における科学的根拠に基づく医療（EBM）および物語に基づく医療（NBМ）の考え方や近年の実践を理解する。EBMの実践としてはエビデンスが実証され始めているロボット訓練を例に挙げ概説する。またNBМについては近年実践を提唱されている生活行為マネジメントと、それにつながったネラティブセラピー、作業科学、カナダ作業遂行モデルについて概説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 作業療法特論(身体障害)	<p>脳の機能を可視化できる脳イメージングを用いた研究が発展しつつある。脳解剖と画像所見などより詳細に学ぶとともに、近赤外分光分析法 (NIRS) を用いて、実験的に脳血流変化を測定することで、脳科学について学ぶ機会を与える。</p> <p>また、将来身体障害分野を志向する学生が能動的に学習する機会を与えるために、学生主体の講義・演習を展開し、ディスカッション・実技を通して知識・技術を与える。</p>	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 作業療法特論(精神障害)	<p>我が国の作業療法が資格化されて半世紀を迎える。作業療法が精神科医療福祉における人導的観点から日本に導入された歴史を踏まえて、これから日本の精神科作業療法が歩む道筋を考える。過去の歴史の中から学習できる精神障害者が抱える「生きづらさ」について見つめなおす機会とする。</p> <p>退院が促進される方針に従い、長期入院者の退院に向けた作業療法支援と、地域で暮らす方法などを具体的に学習する。また、今後、精神疾患を抱えた対象者が、入院せずに住み慣れた場所や社会で「普通」に暮らしていけるような予防的精神科作業療法の役割についてディスカッションを行なう。</p>	
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 作業療法特論(発達障害)	<p>作業療法の臨床は日々発展している。また、社会的な動向も流動的で変化し続け、このような中作業療法もそれに対応した変化を求められている。発達障害で課題となっている自閉症スペクトラムや注意欠陥多動性障害、学習障害などの子どもたちへの支援や福祉分野や教育分野での作業療法士の役割について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (全2回)</p> <p>近年、福祉分野での作業療法士の役割が大きくなっている。地域での発達障害児の支援について学びを深める。 (全6回)</p> <p>近年、教育分野においても自閉症スペクトラムや注意欠陥多動障害、学習障害などの子供たちへの支援が広がり作業療法士の参加が進められている。特別支援教育の基礎を学ぶとともに、教育分野における作業療法士の役割について学びを深める。</p>	オムニバス方式
(作業療法学) 専門科目	作業治療学 作業療法特論(老年期障害)	<p>我が国の高齢化率は急速に進展しており、2025年には超高齢社会を迎えることが予測されている。またそれに伴い、認知症高齢者数も増加することが予測されている。そこで認知症医療に関する最新知識を学習することで、今後必要とされる認知症の予防法についても検討していく。また同時に地域で生活をしていく上で、認知症高齢者の生活環境面から権利擁護という観点についても学習していく。</p>	
(作業療法学) 専門科目	地域作業療法学 地域作業療法学	<p>現在、WHOのICF分類が個人の機能障害から活動・社会参加へと向けられているように、作業療法が対象とする領域は、医療機関から保健・福祉領域へと広がってきており、地域における作業療法士の役割が重要性を増している。地域における作業療法の役割について学習し、地域リハビリテーションの種別、内容と特徴、各種専門職やその他の職員との役割分担などについても学習する。また、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害などの領域に限らず、健康増進や介護予防の観点からも学習する。同時に生活行為向上マネジメントについて演習を通して学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(作業療法学) 専門科目	地域作業療法学	地域作業療法を実施する上で必要な作業活動やレクリエーションなどの治療手技などについて演習を行いながら学習する。前半では地域(在宅、施設)において、特に重要だと考えられる作業活動やレクリエーションなどの治療手技について、その概要を説明しながら演習を行う。実際の対象者や施設概要の把握、治療計画、治療実施を行う中で地域作業療法の役割や実践について学習していく。また地域における他職種連携を念頭に、チーム医療の推進を実施することができることを目的とする。	
(作業療法学) 専門科目	地域作業療法学	(概要)地域で生活する障害者や高齢者にとって望ましいリハビリテーション機器(テクノエイド)や居住空間のあり方(住宅改造)、義肢装具などの対象者をとりまく物理的な環境について演習を中心に理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (全7回)機能障害に対する装具と欠損に対する義肢の作製法、チェックアウトなどについて学ぶ。 (全8回)テクノエイド、住宅改造については実例を通し理解を深めてゆく。また義肢装具・テクノエイド・住宅改造に関連した法規についても学ぶ。	オムニバス方式
(作業療法学) 専門科目	臨床実習	臨床見学実習 I	1年次のすべての授業終了後に臨床見学実習を行う。社会人としての適切な振る舞いは言うに及ばず、医療専門職である作業療法士としての基本的な態度を身につけることと作業療法業務の流れを理解することを主な目的とする。 具体的には臨床実習指導者(以下、臨床実習指導者)の指導のもと、作業療法が対象とする身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害分野での見学を行い、そこで行われている作業療法の目的、治療の実際、作業療法士の役割などを学習する。
(作業療法学) 専門科目	臨床実習	臨床見学実習 II	3年次に臨床見学実習 II を行う。学生は通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する施設で見学を行い、そこで行われている作業療法の目的、治療の実際、作業療法士の役割などを学習する。
(作業療法学) 専門科目	臨床実習	臨床評価実習	2年次後期に学内において作業療法評価実習終了後に臨床評価実習を行う。学内で学んだ基礎知識、技術および作業療法評価実習(学内実習)での経験をもとに、臨床実習指導者の十分な指導・監督のもとに実習する。臨床実習施設において学生は評価計画、評価実施、統合と解釈、目標設定、(治療計画)までの過程を実施する。
(作業療法学) 専門科目	臨床実習	臨床実習 I	3年次に学内にて作業療法治療実習 I 終了後に臨床実習 I を行う。学生は臨床評価実習で獲得した評価過程(評価計画、評価実施、統合と解釈、目標設定)に加え、治療計画、治療実施の過程を実習する。
(作業療法学) 専門科目	臨床実習	臨床実習 II	最終学年の4年次に学内にて作業療法治療実習 II 終了後に総合的な臨床実習 II を行う。学生は臨床治療実習 I で獲得した評価過程(評価計画、評価実施、統合と解釈、目標設定)、治療計画、治療実施、に加え、再評価を行い治療の再検討や効果判定について実習する。